

平成 29 年度大分県学力定着状況調査結果総括（佐伯市・小学校）

国 語 <結果概況> ○偏差値は、知識、活用ともに 50 を上回り、正答率も、目標値（知識 71.7・活用 58.0）を上回った。 ○全ての領域において、県の数値を下回っている。特に知識の達成率には 3.3 ポイントの差がある。		知識	活用
	偏差値	50.8 (51.5)	50.8 (51.1)
	正答率	79.7 (81.1)	71.4 (72.1)
	達成率	75.8 (79.1)	77.6 (78.3)
() は県の数値			
<課題と対策> ○問題の内容別に県の数値と比較すると、「作文」の問題で正答率に 5.4 ポイントの開きがある。条件を指定し、学習した用語を活用した書く活動をまとめや振り返りの中に取り入れた指導を進める必要がある。加えて、目的や意図に応じ、よりよい表現の仕方について考えさせたり、友人の書いた文章に対し助言し合わせたりする指導方法も考えられる。			
算 数 <結果概況> ○偏差値は、知識、活用ともに 50 を上回り、正答率も、目標値（知識 72.9・活用 53.3）を上回った。 ○全ての領域において、県の数値を下回っている。特に活用の正答率、達成率は差が大きい。		知識	活用
	偏差値	51.1 (51.5)	50.4 (51.7)
	正答率	78.4 (79.1)	54.7 (58.3)
	達成率	68.2 (70.0)	50.6 (55.6)
() は県の数値			
<課題と対策> ○問題の内容別に県の数値と比較すると、「わり算」「いろいろな形」の問題で正答率に開きがある。比較量・割合（倍）・基準量を求める割合の問題に関わる内容については、立式し、解答するだけでなく、その中で自分の考えを言葉や式で表すことに慣れさせる必要がある。また、立体の辺や面の関係や作図については、調べる活動から児童に図形の性質を発見させる等、算数的活動を大切にしながら図形に親しむ経験を積ませたい。			
理 科 <結果概況> ○偏差値は、知識、活用ともに 50 を上回ったが、正答率は、活用の領域で目標値（知識 67.8・活用 45.0）を下回った。 ○全ての領域において、県の数値を下回っている。特に活用の達成率には 5.7 ポイントの差がある。		知識	活用
	偏差値	51.4 (51.9)	50.4 (51.2)
	正答率	72.1 (73.0)	41.7 (43.8)
	達成率	67.0 (69.0)	45.6 (51.3)
() は県の数値			
<課題と対策> ○問題の内容別に県の数値と比較すると、「物のあたたまり方」の問題で正答率に 4.9 ポイントの開きがある。理科の授業で得た知識や理解を実際の日常生活や生活体験と関連づけておくとともに、キーワードを取り出し、それらに関係づけながら説明させる指導に日常的に取り組む必要がある			

平成 29 年度大分県学力定着状況調査結果総括（佐伯市・中学校）

<p>国 語</p> <p>＜結果概況＞</p> <p>○偏差値は、知識は50を上回ったが、活用は50を下回った。正答率は、目標値（知識70.6・活用55.0）を上回った。</p> <p>○知識の領域において、正答率と達成率が県の数値を下回ったほかは、県の値と同値か上回る結果となった。</p> <p>（ ）は県の数値</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>○問題の内容別に見ると、大きな課題は見出せないが、県の数値を下回った「作文」の力を付けるため、与えられた条件を記述に反映させ、自分の考えを明確にして書く経験を積ませる必要がある。文章を構成する力、文体・表現の統一など、作文を書く際の基本的事項の習得も望まれる。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;">知識</th> <th style="width: 50%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td>50.9 (50.9)</td> <td>49.9 (49.8)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td>76.7 (76.8)</td> <td>57.4 (57.1)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>70.2 (70.6)</td> <td>62.0 (61.1)</td> </tr> </tbody> </table>		知識	活用	偏差値	50.9 (50.9)	49.9 (49.8)	正答率	76.7 (76.8)	57.4 (57.1)	達成率	70.2 (70.6)	62.0 (61.1)
	知識	活用											
偏差値	50.9 (50.9)	49.9 (49.8)											
正答率	76.7 (76.8)	57.4 (57.1)											
達成率	70.2 (70.6)	62.0 (61.1)											
<p>社 会</p> <p>＜結果概況＞</p> <p>○偏差値は、知識は50を上回ったが、活用は50を下回った。正答率は、活用の領域において、目標値（知識56.1・活用43.3）を下回った。</p> <p>○活用の領域において、偏差値、正答率、達成率ともに県の数値を下回った。</p> <p>（ ）は県の数値</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>○問題の内容別に見ると、「飛鳥時代～平安時代」「中世の日本」の内容で県の数値を下回った。活用の領域に課題が見られるため、社会の中にある情報を自分と結び付けて考えることができるように指導する必要がある。情報を取り出し、取り出した情報の比較や傾向の抽出、結果等に関連付けて書く経験を積ませたい。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;">知識</th> <th style="width: 50%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td>51.2 (50.5)</td> <td>48.8 (49.5)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td>57.4 (55.8)</td> <td>38.9 (40.8)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>54.7 (48.5)</td> <td>38.4 (40.7)</td> </tr> </tbody> </table>		知識	活用	偏差値	51.2 (50.5)	48.8 (49.5)	正答率	57.4 (55.8)	38.9 (40.8)	達成率	54.7 (48.5)	38.4 (40.7)
	知識	活用											
偏差値	51.2 (50.5)	48.8 (49.5)											
正答率	57.4 (55.8)	38.9 (40.8)											
達成率	54.7 (48.5)	38.4 (40.7)											
<p>数 学</p> <p>○偏差値は、知識は50を上回ったが、活用は50を下回った。正答率は、目標値（知識59.7・活用50.0）を上回った。</p> <p>○活用の領域において、偏差値、正答率、達成率ともに県の数値を下回った。</p> <p>（ ）は県の数値</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>○問題の内容別に見ると、「平面図形」の内容で県の数値を下回った。また、活用の領域に課題が見られるため、日頃の授業の中で、『説明の基本形』（県教委作成）を利用して説明させるなどして、論理的な説明の組み立てに慣れさせるようにし、生徒に「数学的な表現を用いて説明する力」を身に付けさせる必要がある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;">知識</th> <th style="width: 50%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td>51.4 (50.3)</td> <td>49.8 (50.3)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td>64.3 (61.6)</td> <td>50.7 (52.1)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>61.2 (55.6)</td> <td>59.6 (63.4)</td> </tr> </tbody> </table>		知識	活用	偏差値	51.4 (50.3)	49.8 (50.3)	正答率	64.3 (61.6)	50.7 (52.1)	達成率	61.2 (55.6)	59.6 (63.4)
	知識	活用											
偏差値	51.4 (50.3)	49.8 (50.3)											
正答率	64.3 (61.6)	50.7 (52.1)											
達成率	61.2 (55.6)	59.6 (63.4)											
<p>理 科</p> <p>○偏差値は、知識、活用ともに50を上回り、正答率は、活用の領域において、目標値（知識57.9・活用42.5）を下回った。</p> <p>○全ての領域において、県の数値と同値か県の数値を上回った。</p> <p>（ ）は県の数値</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>○問題の内容別に見ると、「気体の性質」「火山」「地層」の内容で県の数値を下回った。何のための観察・実験なのか、何を求めての観察・実験なのかを意識し続けさせる必要がある。また予想を確かめる実験を計画したり、目的意識をもって観察・実験を行ったりする活動も求められる。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;">知識</th> <th style="width: 50%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td>51.2 (50.8)</td> <td>50.2 (50.2)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td>60.7 (59.9)</td> <td>36.5 (36.4)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>56.0 (53.9)</td> <td>34.4 (34.3)</td> </tr> </tbody> </table>		知識	活用	偏差値	51.2 (50.8)	50.2 (50.2)	正答率	60.7 (59.9)	36.5 (36.4)	達成率	56.0 (53.9)	34.4 (34.3)
	知識	活用											
偏差値	51.2 (50.8)	50.2 (50.2)											
正答率	60.7 (59.9)	36.5 (36.4)											
達成率	56.0 (53.9)	34.4 (34.3)											
<p>英 語</p> <p>○偏差値は、知識、活用ともに50を下回り、正答率は、活用の領域において、目標値（知識65.2・活用50.5）を下回った。</p> <p>○全ての領域において、県の数値を下回っている。</p> <p>（ ）は県の数値</p> <p>＜課題と対策＞</p> <p>○問題の内容別に見ると、「リスニング（対話文の応答）」「語彙の知識・理解」「さまざまな英文の読み取り」「単語の並べかえによる英作文」「場面に応じて書く英作文」の内容で県の数値を下回った。「読むこと」「聞くこと」を通して得た知識等を、生徒自身の体験や考えなどに照らして、「話すこと」「書くこと」に結び付けるよう指導する必要がある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;">知識</th> <th style="width: 50%;">活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>偏差値</td> <td>49.8 (50.0)</td> <td>49.3 (49.8)</td> </tr> <tr> <td>正答率</td> <td>65.6 (66.0)</td> <td>50.0 (51.1)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>53.9 (55.6)</td> <td>43.8 (45.1)</td> </tr> </tbody> </table>		知識	活用	偏差値	49.8 (50.0)	49.3 (49.8)	正答率	65.6 (66.0)	50.0 (51.1)	達成率	53.9 (55.6)	43.8 (45.1)
	知識	活用											
偏差値	49.8 (50.0)	49.3 (49.8)											
正答率	65.6 (66.0)	50.0 (51.1)											
達成率	53.9 (55.6)	43.8 (45.1)											

